

# DESIGN PROJECT MEDIA COURSE REPORT

拓殖大学 工学部 デザイン学科  
メディアデザインコース  
デザインプロジェクト演習  
報告書

奥会津プロジェクト2018  
「上横田共同住宅を活用せよ！」

# デザインプロジェクト演習 DESIGN PROJECT

## デザインプロジェクト演習とは

「デザインプロジェクト演習」とは、拓殖大学工学部 デザイン学科の3年次に開講されるPBL (Project Based Learning) と呼ばれるプロジェクトベースの演習科目です。  
「感性デザインコース」「生活デザインコース」「プロダクトデザインコース」「メディアデザインコース」の4コースに分かれ、各コースの特徴を踏まえた調査や作品制作を実施しています。

2018年度のメディアデザインコースのデザインプロジェクト演習は、メディアデザインコース所属の小出、大島、崔の3名が担当しました。  
そして会津大学、会津大学短期大学部、大月短期大学の教員および学生らと協働し、奥会津地域の活性化を目指した実践的デザイン「奥会津プロジェクト」を展開しました。

## 担当教員



小出 昌二  
拓殖大学



大島 直樹  
拓殖大学



崔 烘碩  
拓殖大学

## 連携教員



高橋 延昌  
会津大学短期大学部



埴 武郎  
専修大学、東京大学、大月短期大学



藤井 靖史  
会津大学



皆川 全弘  
拓殖大学(非常勤)  
M Cube

## 奥会津プロジェクト

2014年から複数の大学や奥会津振興センターといった団体、町村といった自治体などと連携して奥会津や只見線沿線の活性化に関するプロジェクトに取り組んできました。

2018年度は金山町にできた「上横田共同住宅」を対象に「奥会津サテライトキャンパス」「古民家キャンパス」としての利活用方法の効果や可能性を探りました。

2018年度のデザインプロジェクト演習の主な活動は、6月のキックオフガイダンスからはじまり、9月に他大学とともに1泊2日で奥会津を視察するスタディーツアーを実施、12月に成果を発表し合う奥会津シンポジウムを開催しました。

2018年度 スタディーツアーの主な内容		
9月12日(水)	08:00	八王子駅前をバス出発
	14:00	三島町観光協会のレンタサイクルを視察・体験
	15:00	大塩天然炭酸水を試飲
	15:30	上横田共同住宅を視察
	17:30	宿泊地 森の校舎カタクリに到着
	18:00	夕食
	19:00	キーパーソンを交えての報告会
9月13日(木)	07:00	朝食
	09:30	森の校舎カタクリを出発
	11:00	金山町 瀧谷寺にてよしもと芸人による「おもしろ仏教講座」聴講
	12:37	JR会津中川駅を列車出発
	13:22	JR会津柳津駅に列車到着
	13:40	柳津町 花ホテル滝のやのソースカツ丼で昼食
	14:30	円蔵寺など柳津町内を見学
	15:30	柳津町からバス出発
20:30	新宿駅にバス到着	

# 対象 TARGET

## 奥会津と只見線

奥会津とは、福島県西南部を流れる只見川と伊南川流域の7町村(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(田島地区を除く)・檜枝岐村)の地域名称です。豊かな自然が多く残り、国内でも有数の豪雪地帯です。

奥会津地域を走るJR只見線は絶景の秘境路線ですが、2011年7月の新潟・福島豪雨により、小出駅と会津坂下駅間の113.6kmが不通状態です。2017年に、福島県と沿線市町が施設と土地を保有し、JR東日本が車両運行する「上下分離方式」による復旧方針が決まり、2021年度的全線開通が目標されています。

この奥会津は福島県内で最も高齢化が進む地域でもあり、若者の流出を減少するとともに、外部からの流入促進が求められています。

そのため、奥会津に若者を呼び寄せる提案が、今回の奥会津プロジェクトのテーマとなりました。



## 上横田共同住宅(金山町多目的共同住宅)

上横田共同住宅は「安心して住み続けられる町づくりの推進」と「移住・定住の促進」を目的とした町営住宅です。長く空き家だった物件を金山町が買い取り、改装工事を経て、2018年春に完成しました。

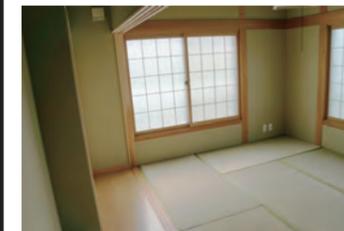
雪が積もっても雪かきせず家へ出入りできるトンネルのような入り口通路が特徴的です。会津横田駅前という立地から、JR只見線の復旧による利活用が望まれます。

冬場(12月～3月)は高齢者共同住宅事業として、高齢者数名で支え合いながら豪雪の冬を過ごします。冬場以外(4月～11月)は町民の各種活動での利用や、金山町に移住や定住を希望する人が居住体験できるなど、多目的に利用できます。

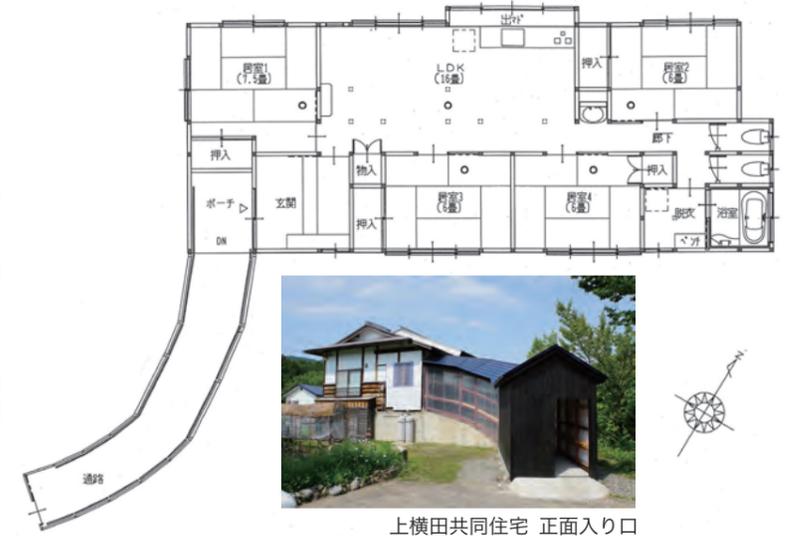
冬場以外の期間におけるこの古民家を「奥会津サテライトキャンパス」として利活用する方法の提案が、今回の奥会津プロジェクトの課題のひとつとしてあげられました。



リビング



居室



上横田共同住宅 正面入り口

# 成果01

# ACHIEVEMENT 01

PROJECT TITLE: 会津のあいはITのあい! ~ ITリーダー育成計画 ~

GROUP NAME: 会津のあいはITのあい設立委員会 (拓殖大学 グループA)

MEMBER: 拓殖大学 工学部 デザイン学科 3年生



### 背景

奥会津地域には大学や専門学校といった高等教育機関がありません。近くにある大学として着眼したのが、会津大学です。会津大学の得意なIT分野を主軸として、奥会津の活性化に協力してもらうことがスムーズな復興につながると睨み、「IT」をテーマとするプロジェクト発案に至りました。

また本年度の奥会津プロジェクトが対象とする上横田共同住宅は、複数人が一緒に過ごせる環境が整っています。そこで数日間、缶詰状態にさせる育成目的の合宿を着想しました。そこで冬季にこの共同住宅を使うこととなる高齢の住人や、外部の学生と地域住民との交流も視野に入れました。外部と内部の双方に利益のある企画を目指すことで、より効率的な復興に貢献できると考えました。

### 目的

本プロジェクトの目的は、高齢化や人口減少といった問題が目立つ奥会津地域に若者の出入りを増やすことで、活気を取り戻すことです。将来、IT分野で活躍したい生徒や学生を対象に、複数人による缶詰状態の合宿のなかで共通の課題に取り組ませることで、地域全体のIT意識を高め、地域振興を目指します。

### 方法

大学生同士でリーダー育成する「5日間みっちりコース」と、大学生が中高生に教える「2日間ゆったりコース」という2つのプランを企画しました。

5日間みっちりコースは、大学や専門学校の学生4人が5日間古民家で寝泊まりしながら課題に取り組むというのが大筋です。課題は同じ上横田共同住宅を冬季に使用する方々にとって利便性のある

ものを提案させるといった実践的な内容を想定しています。

2日間ゆったりコースは、基本的な流れや課題、役割分担などは5日間みっちりコースと同じです。しかしメンバーは、中学や高校の生徒2~3人と、大学や専門学校の学生2~3人の計4~6人でグループを組みます。学生全員がリーダーを担当し、中高の生徒達と協力しながら課題に取り組めます。この2日間ゆったりコースのポイントは、短期集中型ではありますが、期間が2日という点です。1日では終わらない量の課題を出すことで、食事の時間や徹夜するかの判断などをイベント感覚で行ってもらいます。このように中学生から大学生までが、グループで和気あいあいと交わりながら進めてもらうのが目的です。

### まとめ

提案する企画を実施することによって、大学や専門学校の学生は、ITの知識やリーダーの資質を高めたうえで、社会進出に生かすことができます。中学や高校の生徒は、実際にITというのはどういうことをするのかを学び、自身の進路や将来を考えるきっかけになります。

また、課題である冬場に住宅を使う住民の方々に向けた良い暮らしの提案が実現されることで、居住する人たちにも恩恵を与えられます。

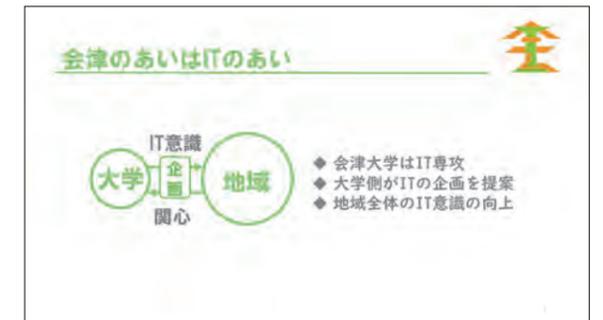
このように本企画によって、奥会津地域に住まわれている住人のIT意識を高めるとともに、進学率の向上など地域全体の振興も望めると考えます。

### 参考Webサイト

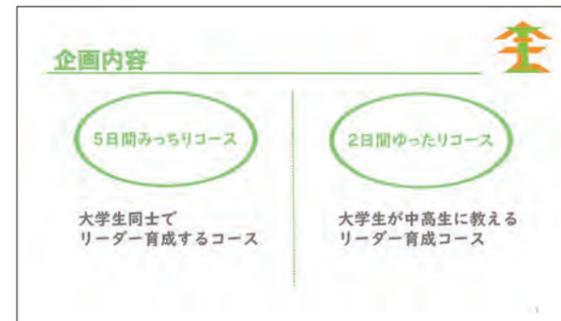
- ・ 会津大学 トップページ、<https://www.u-aizu.ac.jp/>
- ・ ITmedia トップページ、<https://www.atmarkit.co.jp/>



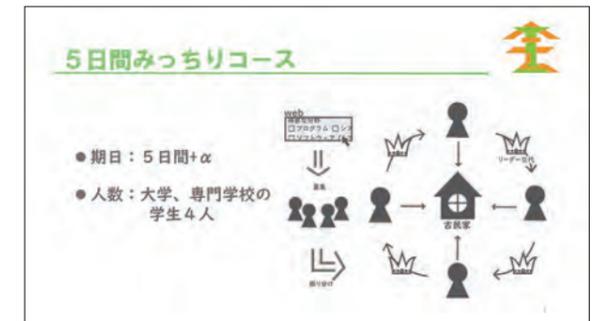
01



02



03



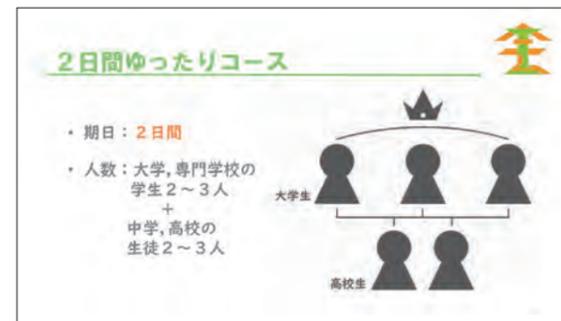
04



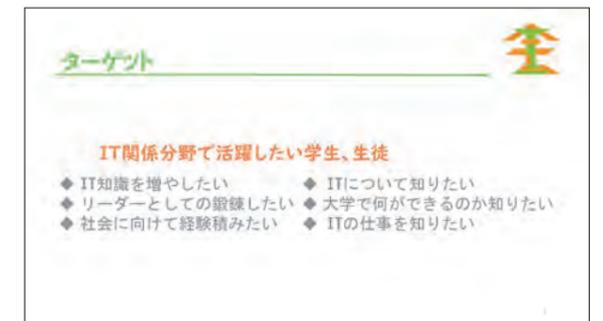
05



06



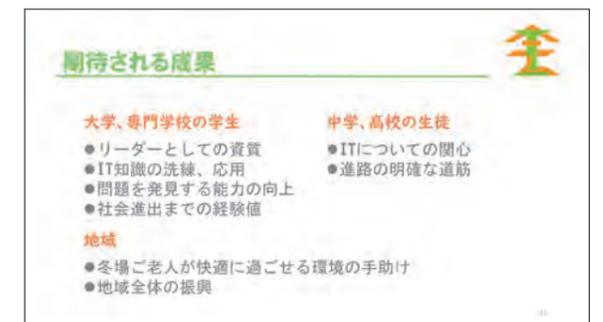
07



08



09



10

PROJECT TITLE: きてえなばなし

GROUP NAME: ぐる〜ぶB (拓殖大学 グループB)

MEMBER: 拓殖大学 工学部 デザイン学科 3年生



河霜 幸希



副島 魁星



畑家 弘樹

背景

奥会津へ人を呼ぶアイデアを考えるうえで、アニメーションやドラマの舞台になった場所に観光として訪れるといった、コンテンツやイベントによって動く若者が近年多くなっていることに着目しました。そしてインターネットの普及によって情報を見聞きするだけであれば移動する必要はなく、奥会津へ訪れるというアクションを起こし得ないと考えたため、「キャッチーなコンテンツであること」と「その場に来ることに意味があること」の2点を軸としました。

目的

本プロジェクトの目的は、「奥会津の知名度の向上」と、「奥会津への再訪回数の向上」としました。

背景に示した2軸を踏まえ、目的を達成するために、年に一度といった単発ではなく、年に複数開催するイベントを企画することで奥会津をアピールすることにしました。複数回開催するイベントを行うメリットは3つあります。1つ目は「観光目的のモノを作らない」です。観光目的のオブジェクトなどを制作した場合、奥会津という守られてきた田舎を壊してしまい、個性が没してしまう恐れがあります。それを回避し、さらに実行と撤退へのリスクを少なくするため、イベントは実現しやすいと考えました。2つ目は「話題を来年に持ち越さない」です。コンテンツへの消化スピードは近年とても早く、一時的に話題になったとしても速やかに次のアクションが起こせなければ、その話題のインパクトはすぐなくなります。そのためイベントを複数回行うことで、話題を見聞きしたターゲットがすぐにアクションが取れ、消化スピードの速さに対応することができるようになります。これにより目的のひとつ

である「奥会津の知名度の向上」を満たすことができます。3つ目は「内輪だけのコミュニケーションで終わらせない」です。人に会いに行くというモチベーションは、行動するための大きな原動力になります。奥会津の人々と新たに人間関係を構築し、田舎の人の魅力を感じてもらうことで、もうひとつの目的である「奥会津への再訪回数の向上」が満たせると考えました。

方法

都内などの学生をターゲットに、奥会津地域住民が語り手となって怪談を聞かせるイベント「きてえなばなし」を提案します。奥会津に伝わる怪奇や伝承を話していただくことで、奥会津の田舎らしい雰囲気と人柄の良さを知ってもらえることを目標とします。怪談というコンテンツは、観光要素として企画側にはネガティブな印象を持たせてしまうかもしれませんが、珍しいイベントしてとてもキャッチーです。イベントの形式は①複数の部屋に分かれた怪談話、②大部屋での怪談話、③寸劇を利用した怪談話の3つを考案しました。複数の形式を用意することで、語り手と聞き手のつながり方に変化を持たせられます。また古民家で開催するため、そのまま食事へつなげたり、荷物を置いて話しに出てきた場所へ行ってみたいといった、交流や体験への発展も見込めます。

まとめ

スタディーツアーを通して、奥会津は知ってもらい交流してもらえれば、良さを理解してもらえ土地だと確信しました。そのため、本企画によって学生たちを奥会津に惹きつけさせられると考えます。

参考文献

田中康弘「山怪 山人が語る不思議な話」山と溪谷社

奥会津 PR 怪談イベント  
きてえなばなし

企画のロゴマークとロゴタイプ



ロゴマーク

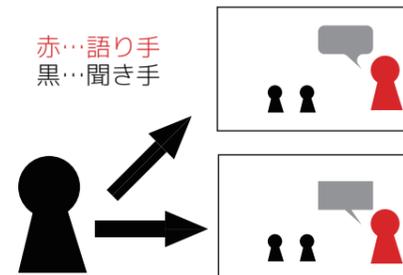
奥会津に伝承されるカシャ猫と企画内容をわかりやすく伝えるため狐をモチーフに用いた

ロゴタイプ

怪談の雰囲気を与えつつ、おどろおどろしさは出ない様にした。色は赤カボチャと自然の緑を採用した。

企画の概要図

形式1 複数の部屋に分かれた怪談話



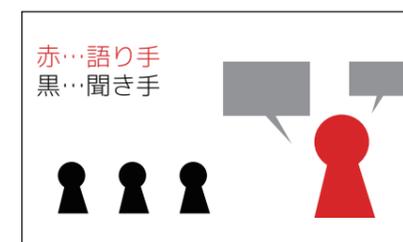
方法

- ・リビングを除いた4部屋を利用
- ・部屋ごとに怪談のカテゴリー(自然、動物など)を決めて、語り手として奥会津の人を配置
- ・聞き手が各部屋をまわって怪談話を聞く

特徴

- ・1グループあたりの人数が少ないため、語り手と聞き手の距離が近く、雰囲気も出しやすい

形式2 一部屋で怪談話



方法

- ・参加者全員が1部屋に集まって怪談話を聞く

特徴

- ・語り手が少ない時に行う
- ・全員が1ヶ所に集まるため、共通した話ができる

形式3 寸劇を利用した怪談話



方法

- ・寸劇を行うことでより情景を想像させられる

特徴

- ・夏休みなどは地元の学生に協力してもらう
- ・人数が必要であったり準備に時間がかかったりするが、奥会津の魅力を最も伝えやすい

# 成果03

# ACHIEVEMENT 03

PROJECT TITLE: **プリンセス・トラベル**

GROUP NAME: **パンプキンガールズ(拓殖大学 Cグループ)**

MEMBER: **拓殖大学 工学部 デザイン学科 3年生**



### 背景

女子のみで構成されたチームのためか、金山町特産物である「赤かぼちゃ」に着目しました。赤かぼちゃから連想した童話「シンデレラ」から導いたキーワードである「プリンセス」を活かして、上横田共同住宅を使用した地域の活性化を企画しました。

### 目的

本プロジェクトは、若い世代に奥会津を知ってもらい、何も無い田舎という認識を改め、魅力に気付いてもらえることを目的としました。

### 方法

「白馬号」と「かぼちゃ号」と名付けた二種類のタクシーとJR只見線に乗って、「かぼちゃキャッスル」と呼ぶ上横田共同住宅を活用しながら、奥会津の観光地を楽しみ、美味しい特産物を食べるツアーを企画しました。タクシーや建物の呼び名を決めたことで、より雰囲気を高めました。さらにタクシーには白馬とかぼちゃに見えるようラッピングを施し、側面には本プロジェクトのロゴマーク(図1)を貼って統一感を出します(図2、3)。

ツアーは、五月から十月までの六か月間の土日に開催し、定員は各日男女問わず八人までとします。ただしツアーの内容から、六月のみ男性四人まで、女性四人までとしました。

五月のツアーは、まず只見線に乗って第一只見川橋梁を観光します。その後かぼちゃ号と白馬号に乗り換えて行動します。次にうどやワラビなど山菜採りをします。採った山菜をかぼちゃキャッスルで調理をして昼食を頂きます。その後は農家さん指導の下、赤かぼちゃの種まきをします。五月の参加者だけの特典として、収穫時期の九月に赤かぼちゃが自宅に届くサービスがつけます(図4)。

六月のツアーは、男女で出発地が異なります。男性は会津若松駅で白馬号に乗って、沼沢湖で釣りをします。女性は小出駅でかぼちゃ号に乗り、金山町で山菜採りをします。それぞれが獲得した食材を持ち寄って、かぼちゃキャッスルでドキドキの初対面です。会えるかどうかは運次第となります。かぼちゃキャッスルで協力しながら料理をして親交を深めます。締めとして縁結びでご利益がある三ツ石神社を参拝後、只見線に乗って夕日の美しい第一只見川橋梁を観光して解散となります(図5)。

十月のツアーでは、ハロウィンパーティーを開催します。勿論コスプレ大歓迎です。かぼちゃ号と白馬号に乗り換えたあと、直接かぼちゃキャッスルで赤かぼちゃを用いてジャックオーランタンを作ります。作ったジャックオーランタンを使って写真撮影をしたあとは、再利用してかぼちゃ料理にするなど存分に楽しめます(図6)。

### まとめ

本プロジェクトの実現によって想定される成果は、若い世代の人々が春から秋にかけて奥会津を訪れて、それぞれの季節ごとに異なったツアー内容を楽しむことで、奥会津の魅力に気付いてもらえるきっかけづくりを提供できることです。

課題としてタクシーのラッピングなど初期費用があげられます。しかし、ブランディングを高めるために必要なアイテムもあるためコストバランスの考慮が不可欠だと考えます。

### 参考Webサイト

- ・写真AC、<https://www.photo-ac.com/>
- ・トヨタ ジャパンタクシー、<https://toyota.jp/jpntaxi/>
- ・トヨタ アクア、<https://toyota.jp/aqua/>
- ・金山町 金山町多目的共同住宅(上横田共同住宅)について、<https://www.town.kaneyama.fukushima.jp/soshiki/56/kamiyokotakyoudoujuutaku.html>

## 奥会津金山赤かぼちゃ

金山町の特産品であり、商標登録されたブランド品。奥会津金山赤かぼちゃと認められるのは糖度27%でんぷん含有量37%の条件を満たすもののみ。夏至までは美味しく頂けます



## 上横田共同住宅

この住宅にはベッド&布団がないので、**一時的な使用にします**。コミュニティスペースなら4時間以内**600円**で借りられます。



## プリンセス・トラベル

白馬号とかぼちゃ号の2種類のタクシーと只見線に乗って、奥会津をめぐるツアーです。5月から10月までの土日に開催し、定員は各日8人。(6月のみ男性4人女性4人まで。)



### スケジュール

- 5月 → 山菜採り & 赤かぼちゃの種まき
- 6月 → ジューンブライド計画
- 7月 → 奥会津夏野菜を収穫
- 8月 → 赤かぼちゃの収穫
- 9月 → 赤かぼちゃの収穫
- 10月 → ハロウィンパーティー

### ツアーに関わる人

参加者:主に大学生(6月のみ20歳以上の社会人)  
運営側:タクシー運転手、料理を教わる地元のおばちゃん、赤かぼちゃ農家、山菜取りに詳しい人

- 🏠 上横田共同住宅 → かぼちゃキャッスル
- 👩 ツアー客(女性) → プリンセス
- 👨 ツアー客(男性) → プリンス
- 🚗 タクシーの運転手 → かぼちゃナイト



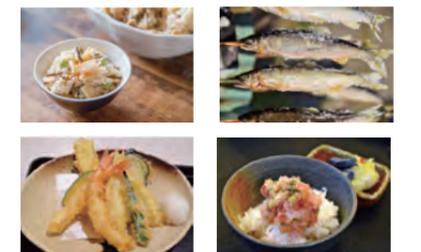
(図4) 5月は山菜取りと赤かぼちゃの種まきがメイン。種まきしたかぼちゃは収穫時期に家にお届け。



(図5) 6月は男性は沼沢湖で魚釣り、女性は山菜取りをして、かぼちゃキャッスルにて落ち合う出会いの旅。



(図6) 10月はハロウィンパーティー。ジャックオーランタンを作って、インスタ映えの旅。かぼちゃ料理を楽しむ。



かぼちゃキャッスルでは地元の方に特産品を使った料理を教えもらい、一緒に作ります。



# 成果04

# ACHIEVEMENT 04

PROJECT TITLE: **ただ見るだけじゃいられない只見線  
~学生の力で会津CMを作ろうプロジェクト~**

GROUP NAME: **チーム I's (拓殖大学 グループD)**

MEMBER: **拓殖大学 工学部 デザイン学科 4年生**



## 背景

福島県には会津若松駅と新潟県の小出駅を結ぶ全長約135.2kmの只見線があります[1]。只見線は車窓から見える絶景で魅力であり、日本国内のみならず、中国のインターネット上でも絶賛されるほどです。そして、その風景を撮影しようと国内外からたくさんカメラマンが訪れます。

しかし、只見線には3つの課題があります。1つ目は、災害により会津川口・只見駅間が不通であること。2つ目は、JR東日本管内でも最下位に近い利用状況ということ。3つ目は、2021年度運行再開予定だが十分にPRできていないことです。

そこで只見線の絶景をPRすることで、会津地方の復興と只見線利用客の増加を狙えると考えました。

## 目的

本プロジェクトは、学生が講義の一環で只見線のCM動画を作り、PRすることです。本企画を提案することによって、会津地方の復興と只見線利用客の増加が見込めると考えました。

## 方法

学生に講義の一環で只見線のCM動画を制作してもらいます。講義内容としては動画撮影から編集までの基本スキルを学ぶものです。そして、講義を通して、只見線のCM動画を制作してもらいます。

講義は通年を想定しています。まず前期では動画構成に関する知識と動画を撮影するためのスキルを取得してもらうと同時に、会津の魅力を知ってもらうために1泊2日で会津に行ってもらいます。次に夏季休暇期間に、CM動画撮影と観光と目的とした会津合宿に3泊4日で行ってもらいます。そこで、会津横田駅に近く、拠点として最適なことから、上横田住宅を講義の活動拠点や撮影スポットと

いったサテライトキャンパスとして活用します。そして、後期には動画編集に関するスキルを身につけてもらい、撮影した動画を元にPR動画を制作してもらいます。最後の講義では会津の観光課や教員に向け、CM動画のプレゼン、上映会を行うことを想定しています。

本企画は将来的には、「会津のメインPR動画への発展」、「他大学との合同授業として発展」、「会津のイベントとしての発展」の3つの発展を考えています。1つ目は学生が作ったPR動画を只見線 福島県情報ポータルサイトや極上の会津プロジェクトといったWebサイトで利用してもらうことを考えています[2][3]。2つ目として会津スタディーサポートのような他大学との合同演習として発展をさせることで、より多くの大学生等を奥会津地域に呼び込むことを考えています。3つ目としては上映会の会場を会津地方に設けることで、地元の人や観光客を対象にした「会津を知るイベント」として発展させたいと考えています。

## まとめ

本企画を実現することで、学生は動画撮影から編集までの基本スキルを学べます。また、学生には動画撮影をするために会津に行ってもらうため、会津のことを知ってもらえます。そして、学生が制作したCM動画を地元の人に紹介してもらうことで、地元の人に向けた大学の宣伝効果も見込めます。

## 参考Webサイト

- [1] 只見線利活用プロジェクトチーム(2018-3)「只見線 利活用計画」<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/263981.pdf>(参照2019-11-29)
- [2] 只見線 福島県情報ポータル<https://tadami-line.jp/>(参照2019-11-29)
- [3] 極上の会津 トップページ <http://gokujo-aizu.com/>(参照2019-11-29)

### 目的

只見線の絶景をPRし、**会津地方の復興と只見線利用客の増加**を目的とした企画の提案

只見線 福島県情報ポータルサイト  
<https://tadami-line.jp/gallery.html>

01

### 企画概要

学生に講義の一環で只見線のCM動画を制作してもらう

動画撮影から編集までの基本スキルを学習

- ・絵コンテ
- ・動画撮影技術
- ・動画編集技術

02

### 講義スケジュール

前期	夏季休暇	後期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画構成に関する講義</li> <li>・動画撮影に関する講義</li> <li>・会津ツアー(1泊2日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CM動画撮影①(3泊4日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画編集に関する講義</li> <li>・CM動画撮影②(3泊4日)</li> <li>・学内プレゼン、上映会</li> </ul>

03

### 会津での合宿概要

**会津ツアー(1泊2日)**

- ・会津の魅力を知ってもらうための観光ツアーを実施
- ・只見線に乗り各駅の魅力を知ってもらう

**CM動画撮影①,②(3泊4日)**

- ・夏季と秋季に会津に行き、CM動画を撮影
- ・天候の変化を考慮し、滞在期間を長く設定

04

### 上横田住宅の活用

**サテライトキャンパスとしての活用**

- ・講義の活動拠点
- ・撮影スポット

会津横田駅に近く、拠点として最適

上横田住宅 玄関

05

### 会津のメインPR動画への発展

制作したPRを只見線応援団や極上の会津プロジェクトで利用してもらえるように交渉

→成功すれば、福島TVでのCM放送や他局での紹介される可能性も

06

### 他大学との合同授業として発展

奥会津プロジェクトなどの大学生交流活動に発展させ、より多くの大学生等を**奥会津地域に呼び出す**

→将来的には会津スタディーサポートのような**他大学との合同演習**として発展

07

### 会津のイベントとしての発展

規模の拡大によっては、上映会の会場を会津地方に設けることで、地元の人や観光客を対象にした「**会津を知るイベント**」として発展できる

08

### 大学側と会津側のメリット

**大学でCMを紹介**

- ・学生に会津を知ってもらえる
- ・授業の履修者が増え、会津に行ってもらえる

→

**会津でCMを紹介**

- ・地元の人に向けた大学の宣伝になる

09

### 企画のメリット

- 学生側**  
動画制作のスキルを学びつつ、会津を知れる
- 大学側**  
会津の人たちに大学をPRできる
- 会津側**  
多くの学生を奥会津地域に呼び込める

10

# 成果05

# ACHIEVEMENT 05

PROJECT TITLE: 奥会津に若者を呼び込むデザインツール

GROUP NAME: 高橋ゼミ

MEMBER: 会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース



大関 美咲



宮原 亜由香



渡部 茜

### 概要

きっかけは2018年4月『JR只見線ブライダルトレイン』に参加し、車内の装飾デザインを行ったことです。そこで、只見線から見える奥会津地域の雄大な景色や、式に参加した方々の只見線や地域に対する熱い想いを知りました。そして、私達は只見線と奥会津に興味を持ち、研究テーマに取り上げようと考えました。

研究の進め方は、これまで実績のある拓殖大学など他大学との合同プロジェクトと連携しつつ、本学独自の活動を卒業研究と兼ねながら行いました。全体の流れは図4の通りですが、大まかに「R.現地調査と大学間連携」と「D.デザイン活動」の二本柱です。

「R.現地調査と大学間連携」では、地域外からの視点(主に学生を中心とした若者)と地域内の視点(主に地域住民)に耳を傾けながら、奥会津に多く点在する空き家を利活用しつつ、若者が集う拠点づくりにならないか模索してみました。ちなみに、奥会津は少子高齢化が深刻ですが、金山町の世帯数は約1000世帯しかないのに300物件を優に超える空き家の数も深刻な社会問題となっています。

「D.デザイン活動」では、地域の様々なニーズに応えながら、地域の魅力をデザインで伝える活動をおこないました。デザインを学んでいる学生なので、理論だけではなく、実践的なデザイン活動を通じてこそ地域の魅力や問題点を直に体験することができたと思います。

ちなみに、一連の活動も含め、第4回ふくしま産業賞にて「学生銀賞」を受賞することができました。この紙面をお借りして本プロジェクトの実行に感謝申し上げます。



図1 ブライダルトレイン(会津川口駅)



図2 ブライダルトレイン車内



図3 会津短大生による只見線ラッピングバス



図4 会津短大生による研究活動の全体像(2018年度)



図5 奥会津視察 in 上横田共同住宅



図6 奥会津視察 in 柳津



図7 奥会津視察 in 柳津町 円蔵寺



図8 スマホカバーデザイン



図9 奥会津金山町MAPデザイン



図10 ロゴマークデザイン

# 成果06

# ACHIEVEMENT 06

PROJECT TITLE: 電動アシスト自転車投入の経済効果 ~「非日常奥会津」3泊の旅~

GROUP NAME: 大月短期大学・埼ゼミ

MEMBER: 大月短期大学 経済科 2年生



### 概要

大月短期大学・埼ゼミ（財政学、地域政策論）は、夏季における福島県金山町が運営する「上横田共同住宅」の活用方法を、首都圏の学生の視点から考察しました。特に、私たちは地域資源がもたらす効用（満足度）を最大化するという視点から、共同住宅を宿泊拠点とする観光プランの下で、金山町内にもたらされる経済効果を試算し、奥会津における活力向上の一助となるよう考察しました。

私たち埼ゼミ生が考えたプランとは、首都圏の学生が電動アシスト自転車を利用し、奥会津の魅力を堪能するといったものです。これには前提条件が3点あります。1点目はネイチャーガイドを含む地域住民の協力、2点目は共同住宅への電動アシスト自転車の投入、3点目は只見線へのバイク・アンド・ライドシステム（自転車ごと電車やバスに乗車すること）の導入です。プランは3泊4日です。1日目は会津横田駅を拠点に、本州唯一の天然炭酸場や大塩温泉などを楽しまます。2日目は只見線を利用し沼沢湖周辺まで移動後、トレッキングやグランピングを行い、自然を堪能します。3日目も同じく沼沢湖でSUP（大きめのサーフボードの上に直立してパドルで漕ぐウォーターアクティビティ）や、「霧幻峡の渡し」を楽しみます。4日目は流れが緩やかな只見川でSUPに挑戦します。この地域資源を十分に活用したプランを実施するうえで、移動時間の短縮と共に時間消費の増加が期待できる電動アシスト自転車の投入は必須です。

次に、上述したプランを実行する上で、不可欠となる電動アシスト自転車の投入を目的とした「金山町電動アシスト自転車活用事業」（仮称）を行う場合の経済効果を試算しました。まず、電動アシスト自転車投入により金山町に80万円の財政負担が生じますが、5年間にわたり、ひと月7人以上に利用してもらうことで採算がとれます。この試算では、自転車の設置台数は共同住宅の宿泊可能人数を考慮し8台（1台10万円×8台＝80万円）、自転車の使用可能年数はバッテリーの平均寿命を参考に5年、プラン内での自転車使用料を1人あたり3,000円、1年のうちプランの実施期間を冬季を除いた8カ月と仮定しました。続いて、同町がその80万円を負担することで、町内に直接及ぼす5年間の経済効果を試算しました。算出方法として、上記プランをもとに観光消費額（上記プラン実施による全消費額）を設定し、それらを産業連関表を用いた総務省の計算ツールに当てはめ試算しました。その結果、生み出される観光消費額が3,848,000円となり、このうち町内にもたらされる波及効果は、旅客運送業360,000円、飲食業850,000円、宿泊業300,000円、総計1,510,000円となります。この151万円が経済効果として期待できます。

以上の考察より、電動アシスト自転車投入による経済効果は決して無視できるものではありません。地域資源の効用最大化を図るためにも、電動アシスト自転車を上横田共同住宅に投入すべきであると結論づけました。

## 電動アシスト自転車投入の経済効果 ～「非日常奥会津」3泊の旅～



大月短期大学 埼ゼミ

1

### プラン日程

	DAY1	DAY2	DAY3	DAY4
9:00			SUP① (沼沢湖)	SUP② (只見川)
12:00		トレッキング		
15:00	伊夜彦神社 天然炭酸場 大塩温泉		霧幻峡の渡し	
18:00		グランピング (沼沢湖)	早戸温泉	
21:00				

2

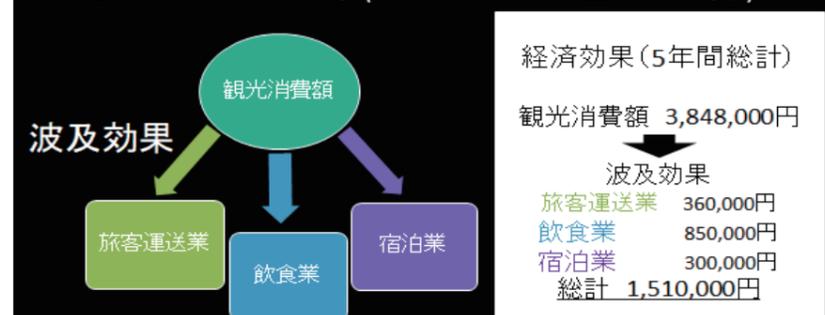
### 「金山町電動アシスト自転車活用事業」の試算 (財政負担)

10万円/台 × 8台(投入台数) = 80万円  
 80万円 ÷ 5年(使用可能年数) = 16万/年  
 16万円/年 ÷ 3,000円/人(1プランにつき) = 約53人/年  
 53人 ÷ 8ヶ月(実施期間) = 約7人/月

ひと月7人以上に利用してもらうことで採算をとることが可能である

3

### 「金山町電動アシスト自転車活用事業」 実施による経済効果(上記プランに基づく試算)



4

# 成果07

# ACHIEVEMENT 07

PROJECT TITLE: **まずは会津若松で空き家の活用を実際に行う**

GROUP NAME: **空き家てらす**

MEMBER: **会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科**



飯田 祥吾



会津大学卒業生



地域の方々

### 背景

会津地域にて空き家が増えています。全国的にも空き家は増えていますが、雪国での課題はさらに深刻で、高齢化によって雪かたしができないため、家が倒壊する危険性もあります。今後は、若者がフォローできる体制を作るなどコミュニティづくりが重要となっています。

奥会津での実施の前に、近隣地域（会津若松市）で実際にコミュニティ形成や取り組みが可能なのか実証する必要があります。

### 目的

本プロジェクトの目的は、実際に空き家を借り、リノベーションなどの手を入れ、イベントを開催したり、民泊事業を行うことです。

### 手法

空き家てらすという活動を通してコミュニティ形成を行い、プロジェクトをビジネス等の形にしていきます。

### 成果

#### [三春軒]

借り手の見つからない空き家に対して、電気自動車等を活用してリノベーションを行い、イベントを実施しました（図1、2）。この三春軒は、のちに借り手が見つかりました。

#### [隠れ家]

空き家に対してリノベーションを実施し、民泊事業者の許可をとり、会津大学卒業生が運営を開始しました（図3）。

これらの活動を通じて、会津若松地域でのビジネス展開は可能であることがわかりました。

次は奥会津地域との連携が可能かどうか手法を模索する必要があります。



図1 三春軒の外観



図2 三春軒でのイベント



図3 隠れ家

# 主な活動記録 (2018-2019)

# EVENT

月	日	イベント	場所	活動校
4	30	JR只見線プライダルトレイン(装飾デザイン)	JR只見線	会津大学短期大学部
5	26-27	教員視察	奥会津	拓殖大学、会津大学、会津大学短期大学部、大月短期大学
5	14	基礎調査、経済分析1	大月短期大学	大月短期大学
5	21	基礎調査、経済分析2	大月短期大学	大月短期大学
6	9	ふるさと会津工人まつり(視察)	三島町	会津大学短期大学部
6	17	現地視察	柳津町・三島町・金山町	会津大学短期大学部
6	29	デザインプロジェクト演習キックオフガイダンス	拓殖大学	拓殖大学
7	5	基礎調査、経済分析3	大月短期大学	大月短期大学
7	12	基礎調査、経済分析4	大月短期大学	大月短期大学
7	19	学内プレゼンテーション1	大月短期大学	大月短期大学
8	1	学内プレゼンテーション1	拓殖大学	拓殖大学
8	7	卒業研究プレ中間発表(学内発表)	会津大学短期大学部	会津大学短期大学部
8	11	只見線カラーのバスラッピングデザイン披露式	金山町	会津大学短期大学部
9	1	上横田共同住宅に宿泊体験	金山町	会津大学短期大学部
9	4	学内プレゼンテーション2	拓殖大学	拓殖大学
9	12-13	奥会津スタディツアー	奥会津	拓殖大学、会津大学、会津大学短期大学部、大月短期大学
9	13	仏教講座in奥会津	金山町	拓殖大学、会津大学、会津大学短期大学部、大月短期大学
10	11	基礎調査、経済分析5	大月短期大学	大月短期大学
10	18	学内プレゼンテーション3	大月短期大学	大月短期大学
10	24	学内プレゼンテーション3	拓殖大学	拓殖大学
10	27	卒業研究中間発表(学内発表)	会津大学短期大学部	会津大学短期大学部
11	5	現地視察	柳津町・三島町・金山町	会津大学短期大学部
11	14	学内プレゼンテーション4	拓殖大学	拓殖大学
11	14	空き家利活用「このかぜ」ロゴマークデザイン	金山町	会津大学短期大学部
11	18	パソコン甲子園会場で奥会津パネル展示	会津大学	会津大学短期大学部
11	23	現地視察	三島町	会津大学短期大学部
11	29	学内プレゼンテーション4	大月短期大学	大月短期大学
12	1	奥会津合同シンポジウム発表会	拓殖大学 文京キャンパス C館604教室	拓殖大学、会津大学短期大学部、大月短期大学
12	1	奥会津合同シンポジウム交流イベント	拓殖大学 文京キャンパス E館展望ラウンジ	拓殖大学、会津大学短期大学部、大月短期大学
12	23	現地視察	金山町	会津大学短期大学部
1	26	卒業研究発表(学内発表)	会津大学短期大学部	会津大学短期大学部
1	30	只見線カラーのスマホカバーデザイン完成	会津若松市	会津大学短期大学部
2	8	第4回ふくしま産業賞「学生銀賞」表彰式	郡山市	会津大学短期大学部
2	14-16	卒業展(市内発表)	会津若松市	会津大学短期大学部

# 主な活動写真 1

# ALBUM 1

**奥会津スタディツアー**  
2018.09.12-13  
奥会津(三島町、金山町、柳津町)



レンタサイクル試乗(三島町 観光協会)



レンタサイクル試乗(三島町 観光協会)



炭酸水試飲(金山町 大塩天然炭酸水)



炭酸水試飲(金山町 大塩天然炭酸水)



室内見学(金山町 上横田共同住宅)



室内見学(金山町 上横田共同住宅)



駅視察(金山町 JR会津横田駅)



ドローン撮影(金山町 JR会津横田駅)



夕食風景(三島町 森の校舎カタクリ)



夕食(三島町 森の校舎カタクリ)



ゲストトーク(三島町 森の校舎カタクリ)



ゲストトーク(三島町 森の校舎カタクリ)



中間発表 大月短期大学



中間発表 拓殖大学 グループA



中間発表 拓殖大学グループB



中間発表 拓殖大学 グループC



中間発表 拓殖大学 グループD

# 主な活動写真 2

# ALBUM 2



おもしろ仏教講座(金山町 瀧谷寺)



おもしろ仏教講座(金山町 瀧谷寺)



集合写真(金山町 会津中川駅)



集合写真(柳津町 会津柳津駅)



ソースカツ丼(柳津町 花ホテル滝のや)

**奥会津シンポジウム**  
2018.12.01  
拓殖大学 文京キャンパス



奥会津シンポジウム(C館604教室)



プロジェクト概要説明



最終発表 会津大学短期大学部



最終発表 大月短期大学



最終発表 拓殖大学 グループA



最終発表 拓殖大学 グループB



最終発表 拓殖大学 グループC



最終発表 拓殖大学 グループD



交流イベント(E館展望ラウンジ)



集合写真(拓殖大学 文京キャンパス)

# OKUAIZU PROJECT 2018



スタディツアー 上横田共同住宅 前



拓殖大学 工学部 デザイン学科  
〒193-0985 東京都八王子市 館町 815-1  
<https://feng.takushoku-u.ac.jp/course/id/>

本誌に関するお問い合わせ  
拓殖大学 工学部 デザイン学科  
大島直樹